



## 福島第一原発事故から10年目を迎えた放射線による健康への影響

**Qちゃん** 先生、前回、福島第一原発事故から10年目となり、市内の空間線量は徐々に低くなって原発事故前と同じ程度になったことが分かったけど、その間、僕らはどのくらい放射線の影響を受けたのかな？

**つぼくら先生** 放射線の影響には、内部被ばくと外部被ばくがあるけど、もう一度Qちゃんと簡単におさらいしよう。

●**内部被ばく** 食べ物や呼吸によって体内に入った放射性物質により体の内側から被ばくする（放射線を浴びる）こと。市は食べ物の検査をしっかり行うと同時に、ホールボディカウンターで検査。

●**外部被ばく** 体の外にある放射性物質から出される放射線で被ばくすること。市は、空間線量を把握すると同時に、ガラスバッジおよびD-シャトルで測定。

下記の表は、それぞれの測定の結果をまとめた

### ●各測定者数の表

年度	内部被ばく		外部被ばく		
	ホールボディカウンター	放射性セシウムが検出された人数	ガラスバッジ	D-シャトル	年間の追加被ばく線量が1mSvを超えた人数
H23	—	—	4,010	—	556
H24	11,943	427	4,135	—	125
H25	7,849	76	3,173	—	8
H26	5,637	28	2,051	310	5
H27	4,938	16	1,949	286	0
H28	4,201	17	—	2,014	0
H29	3,911	5	—	1,065	0
H30	3,502	4	—	963	0
R1	3,243 (令和元年12月31日時点)	4	—	612 (1月25日時点)	0

ものだけど、内部被ばくに関しては、放射性物質が体内で検出される人は少なくなったね。

同じく、外部被ばくに関しても、平成26年度以降、国が定めた年間追加被ばく線量1mSv（ミリシーベルト）を超える人はいなかったよ。

それぞれの結果から、本市では放射線被ばくによる健康への影響を心配しなくてもいいけど、健康への影響を確認するためにも、今後も内部被ばく検査と外部被ばく線量測定を続けて申し込んでね。

**Qちゃん** そうなんだね。先生、詳しく教えてくれてありがとう。

### 今回Qちゃんが分かったこと

▽本市において放射線被ばくによる健康への影響を心配しなくてもいいということ。

▽健康への安全性が維持されていることを確認するため、継続して内部被ばく検査と外部被ばく線量測定をすることが大事であること。

●問い合わせ先 放射能対策室 (☎ 37-2270)

### 自家消費野菜などの放射性物質測定結果

●令和2年2月分 ▽測定件数 1件（内訳：野菜1件）

▽基準値を超えた食品 0件

●相馬市で出荷制限などを受けている食品（令和2年2月28日現在）

▽クサソテツ（コゴミ）▽タケノコ▽フキノトウ（野生）

▽ゼンマイ▽タラノメ（野生）

▽原木シイタケ（露地）▽原木ナメコ（露地）▽キノコ（野生）

▽コシアブラ▽ウド（野生）▽牛（県の定める出荷・検査方針に基づくものを除く）

※最新の情報は、県農林水産物・加工食品モニタリング情報ホームページ内の「出荷制限等一覧」で確認ください。

さ。▽ホームページ = <https://www.new-fukushima.jp>

◎これまでの食品の検査結果（市ホームページ）

<https://www.city.soma.fukushima.jp/housyasen/index.html>

●問い合わせ先 放射能対策室 (☎ 37 2 2 7 0)